

# 第11回 全国被災地語り部シンポジウム in 東北 2026

～15年の歳月は私たちに何を教えてくれたのか～

定員  
300名

参加  
無料

令和8年 3月1日(日)  
・3月2日(月)

会場／南三陸ホテル観洋 (宮城県本吉郡南三陸町志津川字黒崎99-17)  
TEL.0226-46-2442

および南三陸町内・気仙沼市内・石巻市内



今年、東日本大震災から15年目を迎えます。変化の激しい時代の中、年を追うごとに震災の風化は進んでいます。

それでも語り続ける人がいます。語り始めた人がいます。

語り続けることで、私たちは人に何かを伝えることの重要性を知りました。語り始めたことで、新しい繋がりができ、人の温かさを知りました。

ひとりでも多くの方に知っていただき、生きて欲しい。その願いは時間が経ち、世代が移り行く中でも変わることはありません。

どうすれば未来の大切な命が守られるのでしょうか？

「命を守るための語り部」として語り続けるために、そして次世代へ語り継いでいくために必要なものは何でしょうか？

15年という節目、東北のこの地で、私たちのこれまでの歩みと、皆様のこれからへの未来について共有します。

多様な価値観が集う場に、地域と世代を超えた多くの方が集う事を願います。



第3回ジャパン・ツーリズム  
アワード大賞受賞

『震災を風化させないための  
語り部バス』による  
地域活性化への取り組み



## 【プログラム】

■2月28日(土) 特別イベント／【シルクロード～人と文化を結ぶ道～】水墨画ライブペインティング&モンゴル四弦琴の演奏

■3月1日(日)

【エクスカーションプログラム】

▶震災を風化させないための語り部バス 10:30～12:00

【第1部】▶開場 12:50～  
▶オープニング「行山流水戸部鹿子躍」 13:00～13:15  
▶開会式 13:15～13:30  
▶導入ムービー 13:30～13:45

【第2部】▶パネルディスカッション 13:50～15:00

【第3部】▶分科会 15:10～16:30

①「過去の災害を知り、命を守る」～体験と歴史から、学び伝えるべきものとは～  
②「語り部からKATARIBEへ」～災害時に問われる多様性の理解～  
③「あの時、私は」～三陸で語り始めた人たち～

【第4部】▶若者語り継ぎセッション 16:40～17:40

【第5部】▶語り部宣言 17:45～18:00

【懇親会】18:30～20:00 【国際セッション】20:15～21:30

3/1(日) 無料シャトルバス【特別便】運行 予約制

往【仙台駅】10:30発→【南三陸ホテル観洋】12:00着

復【南三陸ホテル観洋】18:15発→【仙台駅】19:45着

※プログラムの詳細・参加お申込み方法は裏面をご覧ください

南三陸ホテル観洋ホームページ URL▶<https://www.mkanyo.jp>  
シンポジウムの詳細を随時UPいたしますのでご覧ください。

■主催:全国被災地語り部シンポジウムin東北実行委員会

(南三陸町地域観光復興協議会・(一社)東北みらい推進機構・北淡震災記念公園・北淡震災記念公園震災の語りべ  
ボランティア・Kataribe World Network・多文化と共生社会を育むワークショップ・エフエムわいわい)

■共催:(株)阿部長商店 南三陸ホテル観洋

WEBからも簡単にお申込みいただけます。

お問合せ・お申込みは…

実行委員会事務局(南三陸ホテル観洋内)

TEL:0226-46-2442 FAX:0226-46-6200  
minamisanriku\_somu@kanyo.co.jp



■特別協力: (株)ほくだん 南三陸ホテル観洋協力会

■協力:(有)スガワラ電化

■後援: 宮城県 南三陸町 南三陸町教育委員会 気仙沼市 気仙沼市教育委員会 三陸新報社 河北新報社 日本経済新聞社仙台支局 朝日新聞仙台総局  
毎日新聞仙台支局 NHK仙台放送局 tbc東北放送 仙台放送 ミヤギテレビ ktb東日本放送 Date fm ラヂオ気仙沼 H@FM (一財)3.11伝承ロード推進機構  
大川伝承の会 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 リアス・アーク美術館 石巻市震災遺構門脇小学校 海の見える命の森実行委員会

